



TOKYO ROPPONGI ROTARY CLUB

東京六本木ロータリー・クラブ



WEEKLY REPORT

風に向かって、風とともに

東京六本木ロータリー・クラブ会長

2013年4月15日発行 第352号

2012-2013年度 No. 32



本日のプログラム

平成25年4月15日

卓話『家族を考える～愛と憎しみの関係～』

恵泉女子大学 大学院平和学科 教授

大日向 雅美 様

プロフィール

1971年代初頭のコインロッカー・ベビー事件を契機に、母親の育児ストレスや育児不安の研究に取り組む。2003年よりNPO法人あい・ぱーとステーション代表として、また子育てひろば「あい・ぱーと」の施設長として、社会や地域の皆で子育てを支える活動にも従事。

主な社会的活動:
厚生労働省社会保障審議会委員・同児童部会会長
内閣府男女共同参画推進連携会議議長
内閣府社会保障制度改革国民会議委員
著書:
『母性の研究』(川島書店)他

クラブからのお知らせ [4月8日]

● 松島会長挨拶

先週、コンサートを聞きにオランダに行ってきましたので、オランダに関するお話をします。アベノミクスの第三の矢として、成長戦略が打ち出されことになっていますが、これに関連して、80年代以降、オランダが進めてきた構造改革の手法を新「蘭学事始」として学んではどうかという意見があります。経営者、労働組合、首相の三者が協議し、それぞれの立場の政策について合意を形成し、それに基づいて社会保障改革、雇用の弾力化、財政再建などの構造改革を着実に実行してきました。その結果、オランダは、小国ではありますが、ドイツに次ぐ経済強国になりました。また、今回のオランダの旅では、第一次世界大戦後、北海からの洪水・高潮災害防止のため、湾口に建設した32kmに及ぶ大堤防を見学してきました。前人未到のプロジェクトだったこともあり、工事に着手する前、実際に8年間は、堤防建設に伴う潮流の変化、海洋生物の生態系の変化などの分析に当てたそうです(実際の建設期間は5年)。

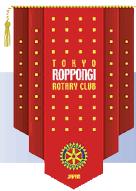
我が国の成長戦略策定にあたり、こうしたオランダの緻密なコンセンサス作りとその着実な実行というやり方は一考に値するように思われます。

● 関口幹事報告

- 西町インターナショナルスクールインターンシップ
4月17日に予定しております西町インターナショナルスクールのインターンシップにつきまして、当クラブ8名(8社)の会員から受け入れのお申し出を頂きました。ご協力頂きましてありがとうございました。



「Spring Garden」 オランダ・キューケンホフ公園



平成25年3月25日
卓話 『匠の手』
禎心会病院脳疾患研究所所長
上山 博康 様



今日は、今の日本の医療に必要なことは何かという話をします。自画自賛じゃないんですけど、日本の脳外科医は本当に素晴らしい人が多いです。夜中まで厭わず働きます。脳腫瘍とか脳動脈瘤、脳卒中、全部脳外科がやっています。近年、この脳外科にものすごい逆風が吹いています。若い人が来ないんです。労働時間が長いとか激務だとか言われますが、一番大きいのは医療事故に対する訴訟なんですね。2005年の調査で訴訟が一番多いのは産婦人科。次は外科。示談で終わったのも入れて21%ですから5人に1人はやられている。それから賃金。全医者の平均賃金が1300万円って多いと思われるかも知れませんが、病院の勤務医の平均です。開業している人は恐らく倍ぐらいになる。開業のピークって昔50代だったんですけど、今30代にシフトしています。勤務医が馬鹿臭いからどんどん開業しちゃう。これも外科医が減っていく原因の一つになっています。

今、各大学の医学部に占める女性の比率は飛躍的に高くなっていますが、診療科目の中で女医さんに人気のあるのは圧倒的に産科、小児科です。脳外科はかなり人気がない。女性の労働力は国の財産ですけど、これはゆゆしき問題なんですね。男女差別じゃなくて区別を、国として真剣に考えなくちゃいけないと思っています。

今から25年前、私は一人の脳腫瘍の患者さんを受け持つことになりました。そのとき患者さんから、中学生と高校生の息子が独り立ちするまで生きていたいと言われ、僕に任せてください、絶対成功させますと言い切ったんです。ところが

手術中の思わぬ事故で患者さんは意識不明の危篤状態になってしまいました。私は家族に土下座して謝りました。そのとき息子さんから言われたのは、「お父さんは先生のことを大好きだって言ってました。



だから信頼して手術を受けたんです。僕たちは「何も言えません」という言葉でした。私はそのとき初めて、患者さんが命を掛けて私を信じてくれたことが分かりました。だから今、命がけの信頼をくれた患者さんに自分の全存在で応えます。実は患者さんは命を掛けて医者を信じるという言葉は、僕が30ぐらいの時に僕の師匠に言われたことなんですね。「お前はそれに応えるんだ。」失敗が分かって言い逃れを一所懸命考えている時に突然、その師匠の言葉が出てきて、ものすごい感覚に襲われました。このことだけは生涯の傷です。一生、僕が背負っていかなければいけない十字架だと思います。

医療崩壊の原因是医療費の削減、医師不足などいろいろなことが言われます。でも基本的には医療訴訟を恐れての委縮医療、委縮手術だと思います。その原因是、僕はやっぱり日本全体のモラル、人間力が低下しているためだと思います。日本人はプライドの国民だったんですよ。医療をやる人間を振るい立たせるには、そこを搔き起さない。先程の師匠の言葉で、私は自分の生き方が決まったような気がします。



「新しい風」はクラブから

国際ロータリー第2750地区
2013-14年度ガバナー・エレクト 舟木 いさ子

国際ロータリーは、2013-14年度RIテーマとして、「Engage Rotary, Change Lives(ロータリーを実践しみんなに豊かな人生を)」を示しました。

私は、そのことを実現するためには、何としても新しい風を起こす必要性を感じています。

そう! それは私たちのクラブから、ロータリアンの心から起こすのです。



▽基本はクラブ

1月14日、米国サンディエゴで開かれた国際協議会で2013-14年度RI会長のロン・バートン氏は、ロータリーの中核的価値観として「奉仕」「親睦」「多様性」「高潔性」「リーダーシップ」を掲げました。この5つを日々の暮らし、「クラブライフ」の中で一つひとつ実現し、地域社会に広めるよう努める人こそが、ロータリアンだと定義しました。

私たちロータリアンにとって、活動の拠点となり砦となるのは、クラブに他なりません。「ロータリーの基本はクラブ」とよく耳にする通りです。第2750地区の93のクラブには老若男女、実にまばゆいばかりの多彩なロータリアンが参加し、「ロータリーの実践」を続けています。会員一人ひとりの個性を響かせ調和させて、クラブとしてはすばらしいアンサンブルを奏でるにはどうしたらいいか、そこが問われていると思います。まさに、「入りて学び 出て奉仕せよ」の形態そのものだと感じました。

▽例会改革

「クラブが基本」という原点に立ち返ったとき、これまでのクラブ運営の良きところを伸ばし、弊害があれば改善することが必要です。週に一度例会に出席するだけではロータリアンの責任を果たしたことにはならない、とバートン会長エレクトは例会の在り方で問題提起し、例会改革の取り組みとして、米国シアトルの「フレモント・ロータリー・クラブ」では子育て中のロータリアンが参加しやすいように専属のベビーシッターを付けるようにした、と紹介しました。

例えば、例会開催の曜日から時間、進め方、プログラムの内容、座席や食事の決め方まで考慮すべき点は多々あります。バートン会長エレクトはこうも付け加えています。—すべてのロータリアンが自問してみるべきで

7月からの大航海、新しい風を感じながら、また新しい風をクラブの皆様と起こしながらの船出を楽しみにしております。

す—「ロータリアンなら誰しも、『自分だったら今日このクラブに入会したいと思うだろうか』と自問してみるべきです。その答えが『ノー』なら、その理由を考えてみてください。ご自分のクラブをもっと魅力的にし、誇りとできるようにするには、何を変える必要があるでしょうか」と。より魅力的に誇りに思えるクラブにするには、何を変えなければならないかを考えてみるべきです。

▽クラブを支援

まずは、クラブに新しい風を吹かせましょう。すべてのロータリアンが、地域社会の中でリーダーシップをもって生き生きと奉仕し、多様な方法で貢献し、自分だけでなく周囲の人々に豊かな「クラブライフ」を手にしてもらうためです。ロータリアン一人ひとりの力は限られていますが、クラブとしてチームワークで活動したとき、わくわくするようなロータリーらしい「創造的奉仕」を生み出すことを私たちちは知っています。

▽草の根

ロータリーは草の根の団体です。ロータリアン一人ひとりとその集団であるロータリー・クラブこそが、ロータリーの原点として活動しなければなりません。

▽地区運営

地区ももちろん、改善すべきは勇気を持って、率先して、いろいろな角度から取り組んで参りたいと思います。

特に、クラブ皆様の声を会長エレクト研修セミナー、地区協議会、会長幹事会、ガバナー公式訪問等を通じて、謙虚に受け止め、共にロータリー発展のために行動して参りましょう。



例会日》月曜日 12:30 – 13:30 例会場》グランドハイアット東京 (TEL : 03-4333-1234)



■ ニコニコBOX情報

山中 祥弘さん

茂木様の卓話、楽しみにしています。よろしくお願ひします。

芹澤 ゆうさん

茂木様、今日の卓話、楽しみしております。

森 佳子さん

茂木様、大変御多用の中、本日は卓話にお見え頂き有難うございます。楽しみにしております。

マークエスティル・スキヤルシャフィキさん

茂木様のスピーチを楽しみしております。

松島 正之さん

茂木様、本日はご多忙の中、時間を割いてご参加頂き、心から感謝申しあげます。お話を楽しみにしています。

安井 悅子さん

茂木友三郎様、本日は卓話にお越し頂きありがとうございます。

山本 良樹さん

札幌で、スギ花粉がないので良い2日間を過せました。

渡邊 滋さん

さわやかな春風が吹いています。
「我帰る 道行く筋ぞ 春の草」与謝蕪村

卓話ゲストの茂木友三郎様からニコニコBOXにご寄付を頂戴致しました。

**4月8日 合計 71,000円
累計 1,622,500円**

● 4月は「雑誌月間」です

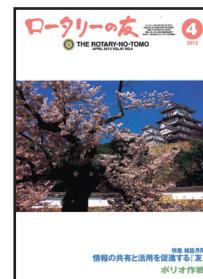
今年で創立60周年を迎えるRI承認公式地域雑誌「ロータリーの友」を活用しましょう。

・RI指定記事を読む

全世界のロータリアンが共有した方がよいと思われる国際ロータリーの記事が掲載されています。

・奉仕事業企画へのヒントをつかむ

「ロータリーの友」には、シリーズ「この人、この仕事」のほか「卓話の泉」「友愛の広場」「ロータリー・アット・ワーク」など、奉仕事業企画へのヒントとなる記事が散りばめられています。



■ 次回のプログラム

平成25年4月22日

**卓話『Happy People Live Longer
～ポジティブ心理学のすすめ～』**

慶應義塾大学医学部眼科学教室 教授

坪田 一男 様

プロフィール

慶應義塾大学医学部卒業後、眼科学教室入局。国立栄木病院眼科部長、ハーバード大学留学、東京歯科大学教授等を経て、2004年より現職。南青山アイクリニック手術顧問を務める。レーシックや角膜移植等、視力の先端医療の第一人者。現代病といわれる“ドライアイ”にいち早く着目して研究と診療に取り組み、多くの論文を発表。また、停滞する日本のアイバンクへ米国式の新しいシステムを導入する。さらに近年は、再生医療とアンチエイジング医学を導入し、新しい時代の医療、健康医学の構築に取り組む。

『今週の言葉』

『芸術作品は…人々の疲れを癒す良き肘掛け椅子』
アンリ・マティス

好きな画家だ。観ていると、ほのぼの幸せな気持ちになれる。幼い子どものような視線で描かれている。小難しい理論や解説は不要だ。マティスは、人生の集大成として、ニースの北西、小高い所に礼拝堂を創った。訪れる人の精神が高揚し、思想が明晰になり、軽やかな気持ちになれることを目指したと。(松島正之会長)

4月8日の例会出席率 (暫定)

・会員の例会出席数(出席率) 33名 (70%)
・ゲスト・ビジターの参加者数 8名

※ メーキャップを含めていない暫定の人数です。



この印刷に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます

東京六本木ロータリー・クラブ

会長 松島 正之

幹事 関口 明博

委員長 安井 悅子

副委員長 渡辺 美智子

事務局》〒106-0031 東京都港区西麻布3-2-13 コートアネックス六本木503号室 TEL:03-6721-1555 URL:<http://www.tokyoroppongi-rc.jp/>